

# Fusyo Collaboration letter

12月3日 No.35 文責 廣田 秀俊



## 「からだを守る」ためには「からだの学び」から

11月27日に開催された学校保健委員会では、性教育に関する話題を中心に進めていきました。事前に行ったアンケート結果から、「どのように性教育を行えば良いのか」「家庭でも必要なことは分かっているが進め方が分からず」という声を取り上げ、その対応についての説明を養護教諭から行わせていただきました。

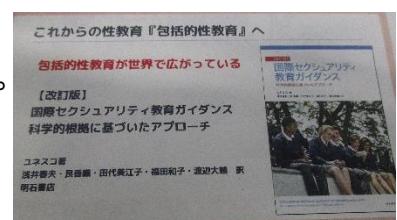
性教育とは「いのち」「心」「体」「人間の関わり方」を学ぶものです。自分も相手も大切にできる力を育てる学びとなります。性の話は子どもを守るための話としても大切なものです。子どもが安心して生きる力を育てる学び、自他を尊重して思いやりを育てる学び、性に関する指導は「いのち」とつながっていることを伝えていくものだと考えています。

これから性教育として『包括的性教育』が世界で広がっています。その内容には、科学と人権がベースとなった8つのキーコンセプトとしてあげられているものがあります。

- 1 人間関係 2 価値観・人権・文化 3 ジェンダーの理解 4 暴力と安全確保
- 5 健康とウェルビーイング 6 人間のからだと発達 7 セクシュアリティと性的行動
- 8 性と生殖に関する健康

国際セクシュアリティ教育ガイドには、上記の事柄が記載されています。

こういった観点から『包括的性教育』を学ぶ学習者が変化を起こし、健康的で幸せにつながる選択力を身につけていく教育プログラムとなっています。



学校で行っている性に関する指導は、成長段階を踏まえながら、性に関する科学的知識を理解させるとともに、児童が生命と自己や他者の個性を尊重し、自ら考え、判断し適切に行動できるようにすることを目標として行っています。今後家庭とも連携して子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと考えています。今回のように、授業内容をお知らせしたり、家庭での会話のきっかけになるものを紹介したりしていきたいと思っています。また、安心して使える教材や情報の紹介もおこなっていこうと思います。

今、『包括的性教育』であげられている事柄に注目し、一歩踏み出す必要性を感じています。

- 1 すべてのこども・若者を対象に 2 すべての性的発達の課題に対し
- 3 あらゆる日常生活の局面を想定しての知識・態度・スキルの学びを通して
- 4 ジェンダー平等と豊かな共生をめざしていく 性の科学を学ぶことが、「いのちの学習」につながることを忘れてはならないのだと思います。

